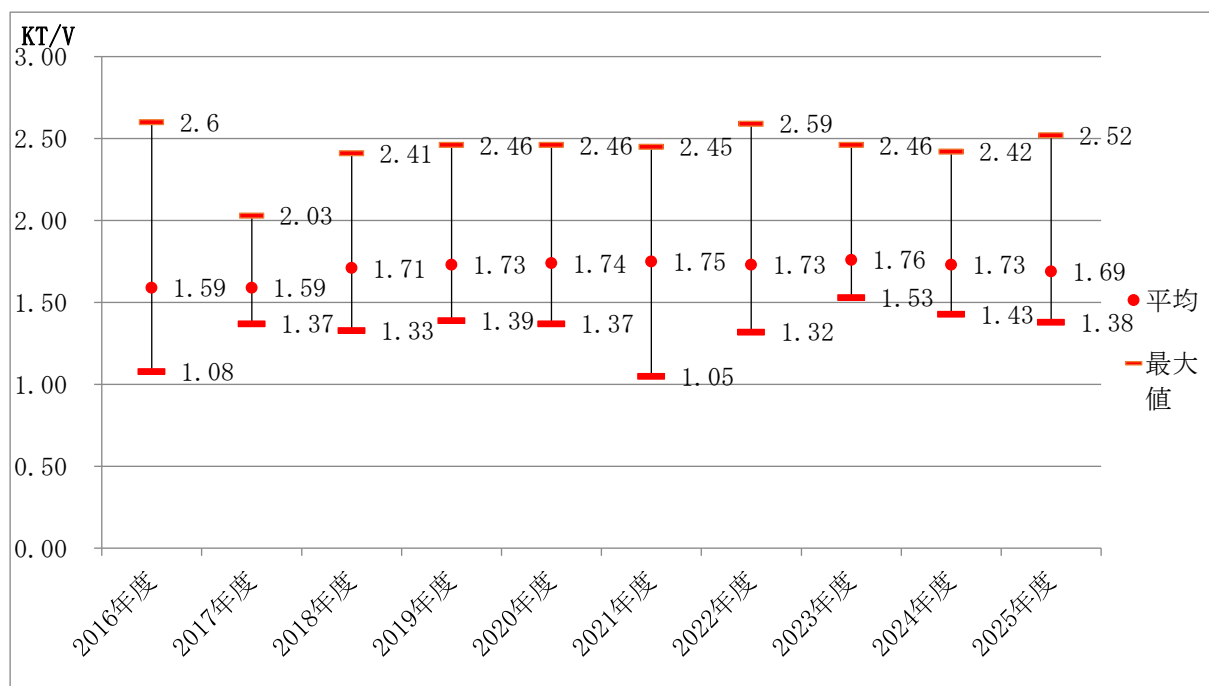


維持透析患者の透析効率



日本透析医学会のガイドラインでは、最低限の尿素透析量として $Kt/V1.2$ が推奨され、目標とすべき尿素透析量としては $Kt/V1.4$ 以上が望ましいとされています。十分に高い Kt/V を維持することで、患者の生命予後のみならず、合併症予後も改善することが期待できます。2025年度の当院の維持透析患者の Kt/V 平均値は 1.69 であり、高い透析効率を維持しています。当院では毎月 Kt/V を算出し 1.4 未満であった場合は、多職種によるカンファランスにて治療モード、血液流量、血液浄化器、透析時間等の透析条件を見直し、透析効率の向上に努めています。

2022年度より超音波診断装置を導入し、バスキュラーアクセスの形態学的評価を開始しました。またシャント再循環率の測定や電子聴診器を用いた聴診所見を定期的の実施しており、シャント不全予防早期発見に努めております。バスキュラーアクセスの良否は透析効率に影響するため、超音波検査により定期的な評価をし、早期に血流不良を回避する処置をすることによって、良好な Kt/V 値が確保できていると思われます。

データ提供 血液浄化センター